

あかあま

わが町、わが店、この道一筋。出会いとコミュニケーション あかい新聞店ホームページ <http://www.akai-shinbunten.net> <発行所>あかい新聞店 武豊店/知多郡武豊町字金下37番地 ☎<0569>72-0356 常滑店/常滑市市場町4丁目167番地 ☎<0569>35-2861

地図の専門店
 ●地形図、空中写真、海図、地質図の販売
 ●特注地図、地図データベースの製作販売

国土交通省国土地理院特定販売店
 株式会社 **アルプス出版社**
 名古屋市中区東桜二丁目21-11 (CBC筋向)
 電話 (052) 931-1005 (代) FAX (052) 932-1312
<http://www.alpspublishing.co.jp/>

通信販売 いたします

企画・制作：株式会社 新聞ビル

マキノ一家の系譜
 俳優の津川雅彦さんに、最近、映画監督・マキノ雅彦さんとしての顔が加わった。津川さんは1956年16歳の時、『狂った果実』で一躍トップスターになり、二枚目から悪役、コミカルな役と幅広い役柄をこなしてきた。

そして一昨年、満を持して、『寝ずの番』で映画監督としてデビューした。祖父に「日本映画の父」といわれるマキノ省三さん、叔父に天才といわれ、261本の多彩な娯楽作品を撮ったマキノ雅弘さん。2人の名匠の血筋を引く家に生まれ育った。

去年は、マキノ一家にとって節目の年だった。祖父・マキノ省三さんが日本で初めての劇映画『本能寺合戦』を撮って100年。叔父のマキノ雅弘さんの生誕100年。

津川さんは、中学生の頃、当時一緒に住んでいた叔父から、毎日のように映画の話聞き、胸弾んだものだ。映画の面白さを刷り込まれ、いつか自分でも撮るのだろうと漠然と思っていた。エンドロールに、マキノ雅彦という字幕が出る気分は悪い



Nobuo Murakami

元気でてくる“ことばたち” (123)

村上信夫 (アナウンサー)

はずがない。

命を伝える旭山動物園
 マキノ雅彦監督の最新作(第3作)が、新年早々公開される。実話をもとにした『旭山動物園物語〜ペンギン』

があるに違いないと思った。何回も動物園に足を運んだ。小菅園長、板東副園長、飼育係の人たちとの交流を深め、話を聞くうちに、野生を愛する彼らのユニークな人間性にふれ、この映画のテーマを発見することが出来た。「野生動物は、種を保存するために弱肉強食の本能を

人の輪が、すごいことを生んでいく

俳優 津川雅彦さん

が空を飛ぶ』だ。赤字を抱え閉園の危機に立つ北海道旭川市の旭山動物園が舞台。「夢はいつか叶う」と信じる西田敏行さん扮する園長と飼育係が、一丸となってアイデアを出し合い、動物をありのままに見せる「行動展示」を生み出し、日本一の入場者数を達成した感動の物語に仕上がっている。

きっかけはNHKのプロジェクトXだった。旭山動物園の動物の見せ方の面白さを「ドキュメント」で見たい。2006年1月、民放ドラマの園長役をきっかけに、初めて小菅正夫園長に会い、やはり園長と飼育係達は凄いなと思う、その場で映画化の希望を伝えた。行動展示という発想の裏には、尋常ではないプロセス

貫くが、人間だけは弱い者をも活かすことができる叡智を持つ。動物園革命といえる「行動展示」によって生き活きと輝く動物達のごさと、飼育員達の素晴らしさを描いた。「命の輝き」と「命の平等」を

群像劇で描きたいこと

監督としてのありかたも旭山動物園で教えられた。野生のままの動物が魅力的であるように、役者の発想や個性がどれだけ生かせるかは、監督の責任であり、使命だ。

第一作は、2006年公開の『寝ずの番』。落語家一家の師匠(長門裕之)、一番弟子(笹野高史)、おかみさん(富司純子)が相次いで亡くなり、寝ずの番の通夜で下ネタ満載の思い出話にふける弟子たち。その中で故人への愛情がにじみ出る物語。

二作目は、去年の『次郎長三国志』。雅弘監督の代表作をリメイクした。次郎長親分(中井貴一)はお蝶(鈴木京香)と祝言を終えた後、3年の

村上信夫プロフィール
 NHKチーフアナウンサー
 1953年、京都生まれ。明治学院大学卒業後、1977年、NHK入局。富山、山口、名古屋、東京、大阪に勤務。4月からは、新番組『ラジオビタミン』担当。(ラジオ第1 8:30~11:50) これまで、『おはよう日本』『ニュース7』『育児カレンダー』などを担当。教育や育児に関する問題に関心を持ち続け、横浜市で父親たちの社会活動グループ『おやじの腕まくり』を結成。趣味は、将棋。著書に『元気でてくることばたち!』(近代文芸社) 『おやじの腕まくり』(JULA出版局) 『いのちの対話(共著)』(集英社) 『いのちとユーモア(共著)』(集英社)

フルート奏者 イネ・セイミ
 一音一音、いとおしむように奏でる音色、貴方に幸せを届けます

コンサート依頼はこちらへ ☎0563(32)0583 (セイミオフィス)

俳画教室開講中
 フルーツ奏者として活躍中。俳画家。絵画を幼少より日展画家の(故)川村行雄氏に師事。俳画を華道彩生会家元(故)村松一平氏に師事。俳画の描法をもとに、少女、猫等を独自のやさしいタッチで描いている。個展多数。

ところ 常滑屋
 とき 月二回 第二・第三金曜日 午後一時〜三時
 会費 一回 二二五〇円(三ヶ月分前納制)
 問合せ ☎〇五六九(三五〇四七〇)

好評発売中

村上信夫 著
 言葉なかつた ありがたう
 世界でたった一人の大切な人へ

修行の旅に出る。宿敵の黒駒勝蔵との抗争で病に倒れお蝶は死ぬ。弔い合戦に次郎長一家が立ち上がる。次郎長とお蝶の恋物語に、一家の絆が描かれる。

3作に共通するのは、群像劇。『寝ずの番』は落語一家の師弟愛、『次郎長三国志』も次郎長一家の結束を描いた。そして『旭山動物園物語』は園長と飼育係達のチームワーク。

人と人の輪が、すごいことを生んでいく。人と人が心を通わせれば、成功と幸せをもたらす「欲得で結びついている人たちもいるが、ボクはそういうものを捨ててきた人々の結びつきを描きたい」

近い将来、マキノ映画の原点ともいえる究極の群像劇『忠臣蔵』を撮りたい。ドラマにチツクがつき、ワンドナーにフルがつく映画作りを続けたい。



俳画/イネ・セイミ

愛知県立大学名誉教授

山田正敏

『バリ島 行ったり来たり』(13)



「地域」や「家庭」の「生活を丸ごと知る」ためには、必要と思われる質問項目を列挙して、アンケート調査するだけでは、不十分であることは言うまでもありません。

事実、ウブドゥ・プリアタン村のアンケート調査で、子どもたちの家族構成を知るために、毎日一緒に生活している家族と人数を問うたところ、「祖父・母」「おじ・おば」の人数が思いもよらず多く、誤記として集計から除外してしまったことがある。

後日、妻にこのことを話したところ、バリの家庭は伝統的な農村であればあるほど、門戸を構えた広い敷地の中に、一族がそれぞれ家々を構え、その中央に高床式の米倉と、一族が寄り集い、儀式を行ったり、作業したり、子守りをしたり、時には楽器を奏しんだりする共用の家屋があるのが普通の造りで、それ全体がヒンズー教信仰による悪霊の侵入を防ぐ塀で囲われ、一族一家のように暮らしている――と語る。

納得はしたものの、『百聞は一見に如かず』と、子ども時代に母親に口ぐせのように言って聞かされた格言が思わず口をついて出た。「何度も聞くより、一度実際に自分の目で見る方がよくわかる」という意味で、深い経験を踏まえ、簡潔に表現した、いましめの言葉「格言」として語られてきた言葉です。

《多岐・多様にわたる「地域」や家庭生活の実態調査》は、その地域に滞在し、生活し、経験し、観察し、「百聞」も「一見」も大切にして調査課題を解明すること。それに勝る方法はない》

さらに、「精神病の一番少ない地域」に生活をして、私自身の心身を使って「人体実験」もしてみたい――との思いにかられ、滞在地の設営に具体的に取っかかりました。

用地は、街道沿いの村の南端に、長く休耕田になっていた棚田跡。東西に広がり、南向きの眺めのよい水田に囲まれた土地です。できる限り広い用地を入手しました。

家屋の外観は、村の家々になじむように、内部は私たち日本人が生活しやすいように設計し、専門家に確定してもらうことにしました。

バリ島では、「家屋の高さは、椰子の木の高さを越えないこと」という定めがあるように、聞いていましたが、その定めどおり村の家々は、全て平屋建て。この規定は、日本の第二次世界大戦の賠償として、観光地サヌールに建てられた椰子の木々を眼下に見下ろす高層ホテル（バリ・ビーチホテル）の「自然景観破壊」

に対して、定められたもの、ようです。バリ島の人々の「自然に対する畏敬の念」の現れとして、ホットするようなこの規定は、大切にしたいと思

思います。

滞在地の家も、この規定に従い、西と北に林立する椰子の防風林に守られて、母屋とテラスを組み合わせた比較的ゆつたりとした建物に仕上がりました。

長年手がけてきた地域・家庭調査とはいえ、未知に等しい「バリ島の農山村」の調査となる……。

当然のことながら、バリ島はインドネシア共和国という外国であるし、地球上の位置も、赤道をはさんでの南半球の小島である。したがって、風土や文化も違う。しかし、そこに住むバリ島民の多くは、われわれ東洋人と同じく、蒙古人種（モンゴロイド）に属しているの、男女ともに日本人によく似た顔だちが目につく。

東京大学名誉教授で文化人類学者でもある吉田禎吾氏は、その著『バリ島民』（弘文堂刊）の中で「筆者自身もしばらくして陽に焼けて黒くなり、バリの衣裳サロンを腰に巻いていると、バリ人に間違われる」とまで書いています。にわかになんか納得しかねるが、日常的になんらの違和感もない。

しかし、言葉と文字は全く違う。文字はローマ字で表記されるが、発音は英語とも違う。言葉にいたっては、標準語のインドネシア語と民族語のバリ語を日常会話の中では使い分け、少しくらいインドネシア語の会話ではできても、バリ語の会話になるとサッパリわからない、と妻など

は言う。

どうせ「わからない」のなら、バリ島調査や、そのための滞在にあたっては、私などは、この違いをとりわけコミュニケーションの手段として言語は、その違いをあえて克服するよりは、異国の地で、妻やその知人・友人の「ご縁」を頼りにそれを出来る限り活用させて頂き、日本語文化圏の中で、ゆつたり生活させて頂

もの一挙に叶い、滞在地の取得と法律で定められた現地人の登記名義人の選任。最大の課題である滞在地と家屋のデザイン・設計と建築工事、この事業全般を請負って下さる方も、登記をはじめ官庁への書類手続・事務処理一際を処置して下さる方も、多大の御理解と御協力の基に決り、実行して下さい。

滞在地が完成して、今年で丁度10年目。世間でいう十周年記念の年である。この10年間、観光地バリ島の様子は、私の目には大きく様変わりしたように見える。ウブドゥ・プリアタン村の「子どもと学校調査」を一応まとめ終えた'94年(H6)には、成田空港の三倍の規模を誇る「関西国際空港」が完成。日本人観光客の一層の到来をあてにしたバリ島の対応の話題で一杯。日本の「帝国ホテル」のクタ・レギャン地区の海辺に進出する話も耳にした。

その後、日本では「バリ観光日本人のチブス感染の広がり」のニュース「鳥インフルエンザで死者」などのニュースに接し、現地に問い合わせた記憶もある。

なんといつても、記憶に生々しい今世紀に入った直後、'01年の米国の「9・11同時多発テロ」。私たちも、現地のホテルのNHKTVの同時中継で知りました。それ以来、空港での出入国検査のキビシサ。それに連動するかのようには、「菜園バリ」といっても他の多くの国と同じように国際政治や事件の影響を受けている。'02年と'05年に「若者のまち・クタ、ジンバラ」で起きた「爆弾テロ連続事件」はその最たるものでした。外国人を中心にした若者の死傷者。観光業は大きな打撃を受けたようです。

日本人の団体観光客は皆無に等しくなり激減した。それに代わって、台湾、中国、韓国の人々の家族・親族らしい団体観光客が目につくようになりました。

この激変の中、私たちの滞在地の村人は、見た目にはなんの変化もなく、私達がチャーターしたワゴン車で都会に買い物に出る際には、必ず「ボン（爆発）の現場近くを通ったらダメ」。悪霊がついてくるから……と注意してくれる。温かい、思いやりが私たちを包んでくれる。



来し方行く末、 四方山ばなし

柴 信次／藤間勘萃



おけいこはじめ



写真：筆者蔵

母方の伯母は、芸妓をしていた。写真、前列左が伯母で、隣に写っているのは、後の横綱・琴桜(先代の佐渡ヶ嶽親方)。昭和三十年代前半のものだろう。

伯母は、弟子たちから「お師匠さん、お師匠さん」とちやほやされる「町なかのお師匠さん」になることを選ばず、自らの芸そのものを世間さまに所望される道を歩いていた。子どものいなかだった伯母は、ぼくを猫つ可愛がりし、ぼくもそれが嬉しくて伯母のところへ入り浸った。こんなふうで、幼稚園ばつこのぼくは、こともあろうに「花柳界を遊び場にする」となった。

「お稽古ごっこにすぐに飽きてしまうぼくは、稽古で使う高価なテープレコーダー(今となってはオーディオ・マニア垂涎のオープン・リール型に、当時の流行歌：「ぼーうくうーは、ないちっちいー」なんて録音して遊んだ。部屋の隅に置かれた箱の中の髪を怖がってべそをかくぼくは、居合わせた姉さん(芸妓)たちの「おもちゃ」だったにちがいない。

伯母は、幼稚園ばつこのぼくを、近所の鮎屋や鰻屋へよく連れ出し、は、ご馳走してくれた。食事が済むと今度は喫茶店。きまつて、ぼくはバナナ・ジュースを飲み、伯母は葡萄ジュースを飲んだ。

「ぼくは、後になって伯母の籍に入り、伯母は養母となった。これが、勘萃の「おけいこはじめ」。

バッハにお熱な高校生



高校の頃、作文に「バッハの伝道師になりたい」と夢を書いたぼくは、ピアノでは飽き足らずに、バッハの時代(1685〜1750)の鍵盤楽器Ⅱチェンバロを手に入れ、チャラン、チャラン♪とバッハに熱中した。当時すでに舞台や講師として芸事での収入を得る「勤労学生」のぼくであったが、この時は父に願って叶った。チャラン、チャラン♪ところで、ピアノでバッハを弾くという事は、ひとつのパロディ…とぼくは考えている。「長唄」を三味線ではなくバンジョーで弾くようなもの…。

当時のぼくは、近所のカトリック教会の毎週日曜のミサでパイプオルガン(電子式)を弾いて、バッハを

真似ていた。ポナルド司祭、ペトロ司祭、カルメロ司祭…ぼくの仕えた司祭は、みなイタリア人だった。そこうこうするうち洗札を受け、ヨハネ」という名をいただいた。柴・ヨハネ・勘萃：三菱東京UFJ銀行…ん？

音のお化粧直し



写真提供：タナカ・アリアミ

作・編曲家の仕事の多くは、編曲。「サクキョク」と言えば、「音楽を作ることでしょ？」と話が早いのに、「ヘンキョク」と言っても「音楽を変えること？」といささかやこしい。では、ぴんつと来ない方のため…

たとえば、今あなたは近所のスーパー・マーケットの食料品売り場で買い物をしている。そこには、聞き覚えのある流行の歌がBGMとして流れている。でも、そこには大好きなあの歌い手の声は聞こえず、オーボエと弦楽オーケストラの音がするばかり…。

こんな「音のお化粧直し」が、編曲。

編曲の依頼には、単に楽器(演奏形体)を差し替えるというものから、たとえば、演歌をジャズ風に…なんてものまであって、様々な音楽様式(ジャンル)や楽器の特性を踏まえていなければ手が出ない職人のシゴト。その上「原曲に、新しいメイ

ク・アップを施す」といったアーティスティックなシゴトでもある。写真は、友人のタナカ・アリアミくんが、彼の個展のために撮った「ヤラセ」。今では、コンピュータで譜面を書くことがほとんどだ。

質のいい店の亭主



リユートを抱えて、生まれて初めて質屋さんの暖簾をくぐった。もの静かな年かさの女将(?)とぼくが向き合うカウンターは、古びた郵便局のそれに似ていた。女将は、ぼくの抱える「何か得体の知れないモノ」を訝しげに見上げながら、分厚いカタログのようなものを手渡してくれた。そこには、家電製品から宝飾品までのありとあらゆる「モノ」が写真入りでぎっしりと載っていた。ページをパラパラと繰るのだけど、リユートなど載っているはずもない。女将が口を開く。「ときに、それは、如何ほどのものなんでしょう？」

「〇百〇十万円です手に入れた大事な楽器なんです…」と、ぼく。空間も時間もこれ以上ないほどに重たい。

「それでしたら、とてもうちではお預かりできないので、名古屋駅の近くにある〇〇というお店に行ってみては如何でしょうか？古美術品も扱っているようすし」という女将に、

「何とかご無理を聞いていただけないでしょうか？物要りなので」と困り顔のぼく。

「何とかならずさから女将とぼくを引っぱり上げてくれたのは、奥から響いたこの店の亭主(?)のしゃがれて大きな声だった。

「そいつは、その人の商売道具だつ！きつと取り返しにくるから、要るだけ貸してあげなつ！」あれから25年…今でも時おり、ぼくはこの日のことを有り難く思い出す。粋な計らいをしてくれたあの質屋の亭主は、いつたい、どんな風貌の人だったのだろうか…。

覚悟はしていたものの舞台から退けられる羽目になったぼくは、ちやうどその頃、今のアトリエを構えたことも相まって、一挺の



写真提供：ライリスト社

みちのくひとり旅

大正琴がご専門のN先生と音楽顧問を務める『ライリッシュ・オカリナ連盟』：来たる4月には、かの『ギネス』の記録に挑み(於：名古屋・栄「オアシス21」、さらにその翌日には、愛知芸術劇場大ホールで賑々しく全国大会を催す。

写真は、昨年10月、福島でのコンサートの様相。ぼくは、この日のために2曲を書き下ろし、指揮をした。エルビス・プレスリーが歌った『ラブ・ミー・テンダー』の原曲『オー・ラリー』と、ご当地の民謡『会津磐梯山』に近頃の民謡『齊太郎節』と『花笠音頭』とをメドレーで綴った『庄助さんのみちのく巡り』。

エンディングの指導者による合奏では、先生方の名演、そして何より、そのお人柄が会場を魅了したのか、温かい拍手は鳴り止まず、ついには、ロック・コンサートみたく、行進曲風手拍子に移り変わる熱狂ぶり。日頃、お愛想的・儀礼的アンコール拍手を頂戴してばかりのぼくには、何

よりものご褒美だった。

当日は、朝07:09発の新幹線で福島へ。11:00からのリハールに滑り込み。午後からの本番。終演後の打ち上げパーティー。次の日に備え最終近くの幹線、どうにかこうにか名古屋へ降り着いた(ふうーっ)。スタッフは前日から福島入りしていたので、文字通りの『みちのくひとり旅』だった。

『勘翠節』いよいよ!



写真提供：ライリスト社

写真提供：ライリスト社

写真は、大学の教壇に立つぼく。… 柳橋(名古屋駅から徒歩5分)に生まれ育ち、今は金山(JR東海道線、JR中央線、名鉄線、地下鉄が乗り入れる)にアトリエを構えるぼく。自転車に乗って来まで15分(すーい、すい)、名古屋駅まで20分(すーい、すい)、御用達の出版社、踊りの稽古場へは7~8分(すーい、すい)。そんなふうで、ぼくの愛車(?)は、渋い葡萄色と、前後のタイヤのアンバランスが気に入っているちよびりレトロな自転車。

「良い指導者であるために」をメインテーマに、題して『柴 信次/藤間勘翠の四方山ばなし』。ヒトの右脳・左脳の機能と日本語との関係に触れる「日本人の耳はこんなに聴き下手」、日本の伝統芸能やクラシック音楽界に蔓延る「浮き世離れ」を斬る「良い師匠やっていますか?」などを口の横つちよに泡を吹きながら1時間半で捲し立てた。

おしまいに、デザート(?)代わりの踊りで、端唄『京の四季』。この演目は、現在放送中のNHK連続テレビ小説『だんだん』の初めごろ、主人公の夢花(祇園の舞妓が踊っていた演目で、ご婦人方に喜ばれること請け合いだ(いよいよ!ズルいね))。

ゼペット爺さんの



待ってました

先程の『ライリッシュ・オカリナ連盟』と同じく、N先生と音楽顧問を務める大正琴の『琴修会』：昨年の夏には、かのNHKホール(東京)で2日間通しの全国大会を繰り広げた。出演者は両日合わせて4500名(観客ではなくて出演者が)。ぼくは、他のお三方と特別審査員を務めた。舞台の上からおもてなしをするのが生業のぼくにとって、まさに上げ膳据え膳の2日間だった。



パンク修理

ぼくが、「自動車の運転免許を持ってないんですよ」と言っと、相手は決まって眉毛と目と鼻と口を全部、顔の外側に寄せて「えーっ!」と、びっく

りする。

先日、これがパンクして、近所の自転車屋さんを訪ねた時のこと。『すいませーん、パンク直して下さあーい』奥から出てきたのは、ディズニー映画『ピノキオ』に出てくるゼペット爺さんだった。店の隅っから折りたたみ椅子を持って来てぼくを座らせると、さっそく修理に取り掛かる。

「ついでにギアの変速機の調子も悪いので、こちらもお願いします」と言うぼくへ、頷くゼペット爺さん。しばらくすると、ゼペット爺さん、修理そっち退けて世間話を始めた。放置自転車のこと。原動機付き自転車のバッテリーが値上がりしたこと。はたまた株の急落。国政の頂点に座す、あのオトナ子どもへの不満。などなど。

「ついでにギアの変速機の調子も悪いので、こちらもお願いします」と言うぼくへ、頷くゼペット爺さん。しばらくすると、ゼペット爺さん、修理そっち退けて世間話を始めた。放置自転車のこと。原動機付き自転車のバッテリーが値上がりしたこと。はたまた株の急落。国政の頂点に座す、あのオトナ子どもへの不満。などなど。

「ついでにギアの変速機の調子も悪いので、こちらもお願いします」と言うぼくへ、頷くゼペット爺さん。しばらくすると、ゼペット爺さん、修理そっち退けて世間話を始めた。放置自転車のこと。原動機付き自転車のバッテリーが値上がりしたこと。はたまた株の急落。国政の頂点に座す、あのオトナ子どもへの不満。などなど。

「ついでにギアの変速機の調子も悪いので、こちらもお願いします」と言うぼくへ、頷くゼペット爺さん。しばらくすると、ゼペット爺さん、修理そっち退けて世間話を始めた。放置自転車のこと。原動機付き自転車のバッテリーが値上がりしたこと。はたまた株の急落。国政の頂点に座す、あのオトナ子どもへの不満。などなど。

「ついでにギアの変速機の調子も悪いので、こちらもお願いします」と言うぼくへ、頷くゼペット爺さん。しばらくすると、ゼペット爺さん、修理そっち退けて世間話を始めた。放置自転車のこと。原動機付き自転車のバッテリーが値上がりしたこと。はたまた株の急落。国政の頂点に座す、あのオトナ子どもへの不満。などなど。

おそろくな未来

ぼくの愛読書、村上春樹『197

3年のピンボール』にこんな下りがある。

テネシー・ウィリアムズがこう書いてる。過去と現在についてはこのとおり。未来については「おそろく」である、と。

ぼくは昨年50歳になった。でも、ほんとの50代は今年から(21世紀が2001年からだったようにね)。第3次オイル・ショック大惨事、老いるシヨック?なあんてオヤジ・ギャグを言ってる場合じゃあない。

てなこと、新年早々から「おそろく」健気な柴 信次/藤間勘翠を、



本年もどうぞご贔屓に。『リュート&ソプラノ』時代をこえて絃と歌が紡ぐ空間』

日時/1月7日(水)

18:30開場、19:00開演

場所/ミューズサロン(名古屋市中

北区大曾根ミューズ音楽館

3F) 入場無料

出演/太田尚見、堀田栄作、

柴 信次/藤間勘翠ほか

お問い合わせ/

052・910・6700

(ミューズ音楽館)

090・3058・0150

(堀田)

『第18回 花ふじ会舞初め』

日時/1月11日(日)12:00開演

場所/名古屋北文化小劇場

入場無料

出演/藤間勘翠、藤間勘翠ほか

お問い合わせ/

090・9197・3163

(花ふじ会)

『茶道表千家 宮下初子社中初釜』
日時/1月12日(祝)11:00
※一般の入場は不可
出演/吉田浩司、
柴 信次/藤間勘翠



◆プロフィール

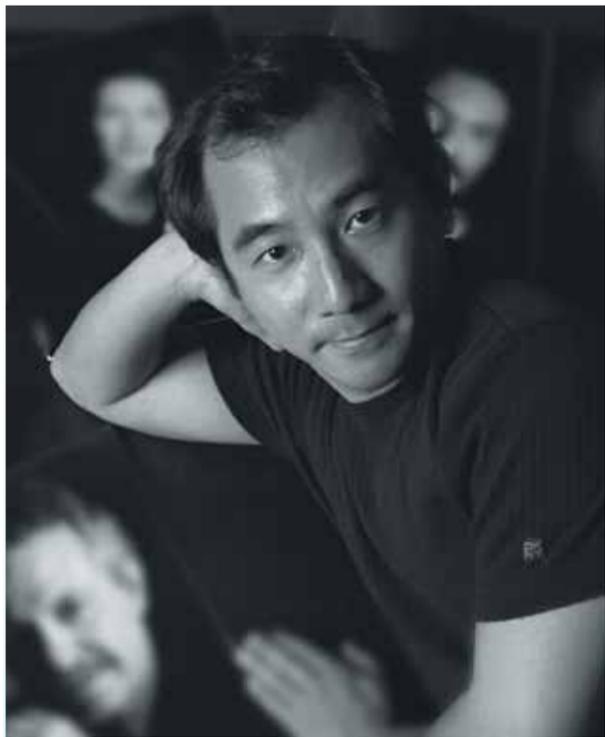
写真・加藤明久

1958年、名古屋に生まれる。中部写真プロダクション(株)にて、コマーシャル・フォトや行政のポスターなどを数多く手掛ける。フリーを経て、現在、東海写真スタジオ株式会社代表取締役社長。
ちなみに、ふたりは、高校の同級生。おまけに加藤の細君も同級生。

文・柴 信次(しば しんじ) / 藤間勘翠(ふじま かんすい)

1958年、名古屋に生まれる。高校在学中から舞台上に立ち、名古屋音楽大学では、作曲を専攻する。作・編曲家、楽師、日本舞踊家(宗家・藤間流名執)として、名フィル(室内楽)との共演をはじめ、年間100本に及ぶ舞台やレコーディングに携わる傍ら、教則本やエッセイを数多く執筆する。ライリッシュ・オカリナ連盟、琴修会(大正琴)音楽顧問。日本福祉大学講師。

みんなが主役



タツ・オザワさん

応援される人になる!(5)

1. タツ・オザワさん

(肖像写真家)の場合

タツさんと知り合ったのは、友人の写真名刺を見せてもらったことがきっかけだった、あまりに良く撮れているので、そのカメラマンを紹介してほしいと言ったら、結構高いよなことを言われたので、そのままになってしまった。だが、あるとき、やはりその写真名刺がどうしても気になって、紹介してくれるよう頼んだところ、タツさんからのメールを転送してくれて、それには添付ファイルで新聞記事がついていた。もちろん撮影金額も書いてあった。やはり決して安くはない。

そうこうしているうちに、出版コンテストである、ベストセラードジエクトのことが耳に入った。そこにはなんと、タツ・オザワさんが参加していたのだ。最後の10入に残り、最終プレゼン大会にタツさんは出ることになった。それで、応援に行くことにした。タツさんは、カリスマカメラマンというよりは、行きつけ

の美容室の凄腕美容師という感じだった。きさくで華奢な様子だった。

そして、タツさんは審査員奨励賞を獲り、本の出版が約束された。プレゼンがあまり見事だったので、私はたいそう気に入って、まず写真セミナーに出てみることにした。六本木でやっていて、「価値を上げる写真、価値を上げる写真」という恐ろしい(笑)テーマのセミナーだった。タツさんは、元銀行員で、融資の担当だった。企業派遣で、アメリカの法律事務所に行ったことがタツさんの運命を変えることになる。あるとき、その法律事務所へ飾ってあった一枚の風景写真が目にとまる。すてきな写真だな!とは思ったが、これくらいなら自分でも撮れると思いつつ、その場

所に行つて写真を撮つてみた。それが、何度撮つても、うまくいかない。悔しいと思つたタツさんは、ついに銀行をやめ、アメリカの写真大学に入り直すことになる。苦勞の甲斐あつて、タツさんは肖像学科を見事卒業する。そして、アメリカで著名人を撮影したりと数々の実績を積んで、タツさんは帰国するのである。私は家族を撮影し

用、名刺用など、必要なものを、データで送ってくれる。希望すれば名刺やポストカードにもしてきてくれる。仕上げられて、新鮮だった。タツさんにはいろいろの人を撮影のため、紹介しているが、報告と連絡がすばらしい。

まず、ご紹介いただいた〇〇様の撮影日は何月何日の何時からと決まりましたとか、撮影が決まると、無事さきほど撮影が終わりました。とてもかっこよく撮れましたとか、今日、打ち合わせにいつてきます、とか、今度写真セミナーにご参加いただけることになりました等の、連絡・報告が必ず入るのである。紹介した方としては、詳しい報告を聞きたいが、さすがにこちらの方から何度もメールを入れるのは、申し訳ないと思いつつ、できないでいると、ちゃんとメールが入るのには恐れ入った。写真家としての腕は凄いの、ちつとも偉ぶっていない。説明もうまいし、お見合い写真を撮りに行った、私の友達(姉と弟)もびつくりするくらい素敵に撮られていて、私が結婚したいくらい(笑)に見事に良さが引き出されていたのには驚いた。タツ・オザワさんが応援される理由。それは短いメールが頻繁にくること。それも紹介者に対する報告・連絡・感謝のメールをきちんと出すことだと思つた。紹介する側としては腕が確かだ、かつ信頼できて、紹介のし甲斐がある。友達にも喜ばれるということだ、これからもどんどん紹介していきたいと思う方である。撮影費用は決して安くはないが、写真一枚で人生が良い方に大逆転することがあるのだと、タツさんが見せてくれた、様々なプロフィール・アフターの写真で、それを

でもらうことにした。撮影が始まり、いくつかがポーズを変えながら、60枚近くを撮影した時点で、もう充分いい写真が撮れていますね。とタツさんに言われた。普通はいい写真が撮れるまで、100枚以上撮るらしい。それから、3枚ずつ並んだ写真の中から写真をピックアップしていき、最後に最もいい一枚が残った。撮影した写真は、ブログ・HP用やチラシ・パンフ

2. 堀口ひとみさんの場合

堀口ひとみさんと逢つたのは、友人の紹介で、本を出したいので相談に乗ってほしいとの依頼が来たからだった。堀口さんは本に出したい原稿をかなりデザイン性の高い、ファイルに綴じて持ってきた。とてもお洒落な女性だった。それもそのはず、彼女はお洒落なアパレルのお店でカリスマ店員として名を馳せていたのだが、縁あつて独立を果たしたからだ。現在はコーチとしてコーチングを行う一方、セミナーやブログコンサルなども行つていて、彼女からアドバイスを受けるとも皆元気になるようだ。メルマガやブログをいくつも出して、時間の使い方もかなりうまい。メールも返信がとにかく早い、そういえば、彼女が出したいと持ってきたのは、『かないずむ』というもので、一ヶ月でダウンロードが1000件を超えたそうである。これは、カリスマ美容師である金井さんとカリスマ店員だった堀口ひとみさんが一年間メールのやりとりをするので、いつのまにか独立に導かれていくというもので、全くの実話というか、メールのやりとりそのものである。ポイントが、めちゃめちゃ忙しく、メール嫌いの金井さんが毎日、堀口さんにメールを送り続けたこと、そして堀口さんのメールに返信し続けたことになる。メール嫌いで忙しい金井さんに毎日メールを送信させた秘訣は何だったのか? それこそが、堀口さんが応援される理由である。応援したいと思わせる不思議な魅力が堀口さんにはある。気が強いのに、落ち込んだことを隠さないとか、返信しやしないメールを書くとか、ここまでやりま

し、金井さんから勧められたことや課題は全てクリアしてきたことなど、金井さんの信頼を勝ち得続けてきたことなどである。金井さんのアドバイスには素直に従ってきたことも勿論である。実は私が堀口さんを応援しようと思ったのは、彼女の持ってきたデザイン性の高いファイルにあった。他人様に差し上げる場合は、いわゆる100円均一でもいいくらい(なぜなら、たたくさの人に企画書や原稿を見てもらう必要があるから)なのに、ちよつと高めの質の良いファイルで私に原稿を渡したからである。このファイルを渡されたことで、なんだか自分のことをとても尊重されたような気がしたのだ。だから、出版仲間の集う会合に友人と一緒に、彼女の企画書を説明したり、出版社に売り込みにも行ったのだ(売り込みは勿論、大成功だったが...)。たった一枚の写真、たった一枚のファイルが人の運命や応援されるかどうかを決めることがあるのだと、こころに強く思う次第である。

著者紹介

チャンス☆コーディネーター
秋田英濤子(あきた えみこ)

大学を卒業後、国際法律事務所所長弁護士秘書を務める。その後、コンサルティング会社にて、知的財産権担当、社長秘書、経理、NPOの事務局担当等を務める。現在は、作家、ビジネス・緑・プロデューサー、キャリアカウンセラー<伯楽>、図解の技術研修インストラクター、チャンス☆コーディネーターとして活躍中。全国に会員がいる教育関係のNPOの事務局長として、精力的に幅広い活動も行っている。著書に「自己啓発のための知的勉強法」日本能率協会マネジメントセンター刊(共著)、小冊子に「一期二会」もう一度逢いたい人になるために、講演録に「講演と新聞・雑誌の取材依頼が殺到! それは1冊の小冊子から始まった」がある。



「Chabo!とYOUTUBEが変える、国際貢献と情報発信の方法」 秋田英滯子

本を1冊買うごとに、国際貢献ができる Chabo!の仕組み

先日、東京は京成青砥で開かれた chabo! を応援する著者とファンが集いに参加してきた。1000人以上が参加する大規模なイベントで、チケットは満席売り切れ御礼とのことだった。chabo! というのは、実は本好きにはたまらない仕組みで、本を買うと同時に国際貢献ができることになっている。それは chabo! に入っている著者(現在10名これからどんどん増える予定)は出した本の印税の20%が自動的に chabo! に入り、このお金が JEN という国際的に活躍する NGO を通じて、寄付され、途上国の人々や暮らしを助け、支えることを行うというものである。

chabo! の呼びかけ人である、勝間和代さんは言わずと知れたベストセラー作家であり、公認会計士で、三人の子供の母親でもある。

彼女の呼びかけで、10名の著者が chabo! に参加して、当日は日程調整ができた6名がパネリストとして参加し、参加者に向けて話をした。

その話というのも「夢を叶える私の方法」というもので、6人が夢を叶えるためにやってきた方法についてパネルディスカッションで語るもので、2つのパネルにわかれ、一つは勝間和代さんがファシリテーターもうひとつのパネルは、久恒啓一さん(多摩大学教授、NPO法人知的生産の技術研究会・理事長)が務めた。

面白いと思ったのは、夢を叶えるにあたって、それぞれやり方は微妙に違っても、おっしゃっていること、おこなっていることは同じだということだ。

分厚いレジュメ(冊子)も配られ、当日参加できなかった chabo! のメンバーのそれぞれについても、詳しいプロフィールと夢を叶えるための方法が書かれているのがとても親切で良かったと思う。

も親切で良かったと思う。

勝間和代さんはこのイベントの際に、chabo! の活動で、10ヶ月の間に井戸を3本掘ることができたとおっしゃっていた。また、このイベントの参加費から経費を除いた全額で更に2本の井戸を掘ることができたのだという。すばらしいことだ。本を読みたくても、まず水を飲み生き延びなければ、本を読むことすらできないのだから・・・。

私は、そこに参加していた、6名の著者のうち2名の方とは会ったことがあったのだが、残りの4名の方とは一度も面識がなかった。なので、本の印象で何となく好き嫌いを決めていた。(よくありがちなことだが)。

だが、実際にこのイベントのパネルで話を聞いてみると、どのかたもそれぞれ、苦勞し、うまくいかない日々をなんとかやり過こし、いじめには耐え、ということがあったようだ。

本にはそういうことを書かない著者もいるし、とにかく売れっ子のベストセラー作家揃いだ。苦勞知らずのイメージが吹っ飛んだ。当たり前だがものすごく努力しているし、骨があると思っただ。

chabo! は JEN の活動を通じ、南スーダンに主に支援しているようだが、私たちは直接南スーダンに井戸を掘りに行くことなど、現実的には難しい、でも、本を1冊買うごとに、その井戸を掘るのに必要な資金を提供できるということが凄いいことだと思っただ。



秋田英滯子



photo: タツ・オザワ撮影

今までは本を買うことと、井戸を掘る(つまり国際貢献・国際援助をする)ことは別々のことであつたが、現在は、本を買い、勉強もでき、同時に途上国の人に安全な水を供給するための井戸を同時に掘ることになる、という一石二鳥ならぬ三鳥が実現できてしまうのだ。

もちろん、これには言い出しつぺ(考えついた)の勝間和代さんもすごいが、協力する出版社も凄いいし、それに賛同し、自分の大切な印税の20%も寄付しようという著者の方々もすごい。

最後に、神田昌典さんが、「勝間和代さんはわずか10ヶ月の活動で、3本の井戸を掘った。大変でしたね! 勝間さんは、マザーテレサになれるかも知れない」とおっしゃったとき、会場から笑いが漏れた。笑つたのはたぶん、そんな大げさな・・・とか、マザーテレサはそれ専業でやっているのだから・・・という思いが会場の参加者にはあつたからだと思う。だが、神田さんは、「そこは笑う(べき)ところじゃないですよ!」と私たちを戒めた。

そして、普通に生活しながら、国際貢献もできるというビジネスモデルを考え出し、実行に移している勝間和代さんにエールを送つたのである、「ノーベル平和賞をもらえるかもしれない! 国境無き医師団のようにね! 皆さんもそうですよ! 国境無き医師団は、全員がノーベル平和賞を受賞したのだから・・・。」と神田さんはおっしゃった。

私たちは、そのとき、勝間和代さんが涙ぐんでいるのが分かった。勝間さんのセミナーには何度か出たことがあるが、彼女の涙は想像もつかなかつた。おそらく、パネリストも、他の参加者にとつてもそうだったに違いない。

勝間さんにとつて神田さんの一言は報われた瞬間で、何よりも嬉しかったのではないだろうか?

私はこのイベントに参加して本当によかつたと思う。

これからは chabo! の本をたくさん購入すると同時に、chabo! の著者にもなれるよう、がんばろうと考えている(chabo! の著者になるには、10万部以上のベストセラーを出すことが条件と聞いたので)。

なぜか、忘年大プレゼン大会が YOUTUBEに流れる(YAJI)...

昨年2008年のNPO法人知的生産の技術研究会(<http://www.tiken.org/>)の東京本部の忘年会に、名古屋からわざわざ、デジタルビデオカメラ持参で、撮影にくるといふ会員さん(加藤さん)からのメールが届いた。

何でも、皆さんが知的生産について発表しているところをビデオカメラで撮影し、編集した上で、YOUTUBEに流すというのである。

いやはや時代も変わったものである。加藤さんは元電機メーカーの社員で、メカにめっぽう強く、愛知万博に出展し、それを成功させるために、会社を退職したほどの熱血マンである。

その彼の温かい申し出に、さすがに普通の忘年会の開催はまたもやなくなり、大アウトプット大会になってしまった!

名古屋からわざわざビデオ撮影に来てくれる。それも YOUTUBE に流すことが前提で、と会員に告知をしたところ、皆、参加し、プレゼンしたいといひだした。また、本来ならこちらからお願ひすべきゲスト級の方からも、参加したいのですが・・・とメールをいただくなど、驚きの展開に。

さて、大プレゼン大会(もともとは単なる忘年会)はどうなることやら、と思いきやテーマもそれぞれに工夫を凝らしたもので、専門性を活かしつつも、YOUTUBE で世界中に流れることを考え、わかりやすいものになった。

YOUTUBE の出現で、単なる発表会も世界へ発信というすごいことが簡単にできる時代になったのは恐るべしである。

皆さんに世界中の人に観られてもいいように、お洒落してきてくださいと伝えておいたが、効果はあつたようだ。

プレゼンしない参加者にとつても有意義なものとなり感謝している。

作り手と使い手を結ぶ工芸の森

見世 広場 工房
SHOP PLAZA LABO

画廊 市場
GALLERY MARKET

方円館



〒479-0003 愛知県常滑市金山字上砂原123 とこなめ焼卸団地
TEL 0569-43-7101 FAX 0569-43-7104



(有)知多エッグ

知多の新鮮たまご 発酵ケイフン

(有)知多エッグ

知多郡武豊二ツ峯380
TEL0569-73-6341

電動ロクロコース始めました。親切、丁寧に指導いたします。



【施設のご案内】

まるふく
1F●やきもの展示即売
●「おとうふ工房いしかわ」
とうふ、パン、きらずあげ等 販売
2F●110名の陶芸教室
●電動ロクロコース 絵付け 手ひねり等

セピカ
1F●やきものギャラリー セピカ
月2回 個展開催

◎大駐車場完備

〒479-0832 愛知県常滑市松原町6丁目66番地の1
TEL(0569)35-2209 FAX(0569)34-5745
●年中無休 ●営業時間 AM9:00~PM5:00

知多四国めぐり
関連書籍販売しています



プランニング・デザイン・総合印刷・オンデマンドデジタル印刷・可変データ印刷・PDF高速データ変換・CD-ROM作成・Data Base・CG制作

半田中央印刷株式会社

〒475-0032 愛知県半田市瀬干町1番地の21 TEL (0569) 29-2525 (代) FAX (0569) 29-4500
URL <http://www.handa-cp.co.jp> E-mail main@handa-cp.co.jp

グループ会社
プリ・テック株式会社●プリテックメディア株式会社●トーヨー印刷株式会社

新春とりどり展

平成21年1/31(土)~3/1(日)
水曜日は休ませて頂きます。
楽しい作品に囲まれて
心なごむひとときを



陶芸サロン
陶美園 ☎(0569)35-2320

〒479-0838 常滑市鯉江本町6丁目36番地

メンズ カット パーマ
& レディース カット パーマ
ロット巻コンクール優勝の店

美容

サロンド東京

スタッフ募集中

常滑市市場町6丁目105 TEL0569-34-6508
定休日/毎週月曜・火曜 FAX0569-34-6508

昔ながらの蔵と語らう

白走酒蔵開放

小さな蔵ですが、味わいぶかいお酒を造るために、伝統の造りを行っています。
この機会に是非ご覧下さいませ。

平成21年2月28日(土)・3月1日(日) 入場料500円
両日とも午前10時~午後3時

名鉄常滑駅から無料送迎シャトルバスあり

常滑市古場町4-10 TEL0569-35-4003 澤田酒造(株)

手造り陶雛大展示中



二階ギャラリーは陶雛でいっぱい。
ぜひ、ご覧ください。
二日から営業します。

花器専科
やまもと

〒479-0003
常滑市金山字上砂原105番地
とこなめ焼卸団地セラモール
TEL (0569)43-7181
FAX (0569)43-7191
営業時間 AM10:00~PM5:00

楽しいバスの旅...

子供会・老人会・同年会 他
団体でのバス旅行は...



(株)名鉄知多バス旅行
☎0569-24-6651



安心・安全でおいしいお水を
ご家庭へ、オフィスへお届けします。

株式会社アクアス

知多郡阿久比町 大字草木字上外六3-1 TEL:(0569)47-1913

葬儀のことなら...霊柩車から香典返しまで



誠意と真心であんしんのかけはし

CSK葬祭・瑞雲殿

常滑・青海

(株)シイエスケイライフ 常滑市北条1-34
電話(0569)35-2785 フリーダイヤル 0120-33-5909

落ち着いた雰囲気の中で、
ゆっくりと名作をご鑑賞ください。



めいてつ
アートギャラリー

meiteisu

ヨーロッパアンティーク展

■平成21年1月21日(水)→2月3日(日)
※最終日は17時に閉館させていただきます。

アール・ヌーヴォー、アール・デコを代表するエミール・ガレ、ドーム、ルネ・ラリックなどのガラス工芸品やマイセン、K.P.M.、セーブル、ウィーンなど、王立窯を中心としたヨーロッパ名窯の陶芸作品、気品溢れるアンティーク・アクセサリーなど、18世紀から20世紀にわたる西洋骨董の逸品1,000余点を一堂に集めて展覧即売いたします。
ぜひ、この機会にご高覧賜りますようお願い申し上げます。

特集 魅惑の陶板画
ベルリンK.P.M.やウィーン、ルドルスタットなど王立窯の陶板画の数々をお楽しみください。

[本館] 10階アートギャラリー ダイアルイン 052-585-2841

不思議で魅力的な国ペルーについてII

皆様こんにちは。お久しぶりでございます。いかがお過ごしでしょうか。「ちたるまん」の編集長より再度記事執筆の依頼があり、再びこうして拙文を書かせていただくことになりました。無学で恥ずかしいながらも、今一度だけペルーの習慣や文化について書いてみたいと思います。脈絡の繋がらないまま、心に思いつくままに綴ってまいります。どうぞお気軽にお読みいただければ幸いです。

本当に遠い所へ来てしまいました。

南米の真ん中あたり、西側の太平洋に面するペルーという国は、日本からほとんど地球の反対側に位置する国です。皆様がペルーへ旅行されますと、一般的にアメリカ合衆国（あるいはカナダ・メキシコの北米大陸）を経由して行くこととなります。たまにヨーロッパ経由で入る方法もありますが、あまり一般的ではありません。アメリカでの飛行機の乗り継ぎ地は利用される航空会社によって違いますが、概ねシアトル、ロスアンゼルス、ダラス、アトランタ、マイアミなどです。日本からの飛行機は場所にもよりますが、およそ10〜12時間くらいでアメリカに到着します。アメリカへ入国しますと英語一本と思いきや、近年のヒスパニック系移民の増加からスペイン語がかなり通用するのには驚きます。フロリダ半島のマイアミに行こうものなら、そこではほとんどスペイン語だけで生活ができるという過言ではないでしょう。そこはカリブ海に面したラテン系世界の玄関口です。中南米は「アメリカの庭」と呼ばれているのうなづけです。

アメリカを飛んでユカタン半島・カリブ海上を通過して、同じく10時間あたりでいよいよペルーへ到着です。ペルーの玄関口は首都リマです。アメリカからの便は、概ね現地時間の夜に到着することになります。「リマ上空に達しました」という機長のアナウンスを耳にして機内の窓から外を眺めると、飛行機の高度が下がっていくとともに雲が切れてきて、夜の闇の中にオレンジ色に輝く巨大な街がだんだんと眼前に迫ってきます。この光の正体は、街中の道路を照らしている街路灯です。霧やスモッグに煙る煤けた街にはフォグランプが有効なのでしよう。ホルヘ・チャベス国際空港は最近造り直して幾分大きく、また綺麗にもなりました。滑走路に長く連なる誘導灯に導かれるようにして、長旅をしてきた飛行機は空港にやっとなり立ちます。身支度をしてから、陽気にスペイン語を話す人達の列に従い機内の廊下をのろりと歩きます。「ムーチャス・グラシアス」と機内添乗員の方々に礼を言ってお礼の扉から



リマの新市街地

外に出ると、むーっとした湿っぽい空気を肌いっばいに感じます。もし冬の場合の到着なら、湿度は確実に95パーセントを超えています。あの世界的なチェロ奏者のヨーヨー・マー氏もリマへ演奏旅行に来た折、その滞在時間はわずか14時間くらいだったといわれています。それはきつと湿気に極めて弱く、敏感な愛用の名器を損ないたくなかったからでしょう。



スイス系の学校

入国審査を済ませて到着ロビーへ出ますと、そこにはありとあらゆる人種の人達が待ち構えています。肌の色の白い人、黄色い人、浅黒い人、黒い人。目の青い人、緑色の人、茶色の人、黒い人。髪の毛の黒い人、茶色い人、金髪の人。背の高い人、低い人。薄着の人、厚着の人。あまり日本のような「平均的な」ものは見当たりません。同じ両親の元から生まれた兄弟姉妹で、性格はもとより髪の毛や目の色、肌の色まで違うという事実は、アメリカ大陸の発見そして征服・入植以来（15〜16世紀）、いかに人種の混血が進んできているかを顕著に物語っているところ

言葉がわからないところに、しかも深夜の到着便だとホテルに行くのも心細いものです。こういう場合は、あらかじめ旅行会社の予約による送迎でホテルへ連れて行ってもらうのが安全で安心です。外国から訪れる観光客の大多数は、近年の治安の悪化から、世界遺産に登録されている旧リマ市街地のホテルは避けて、新市街地



田舎の家

と呼ばれる比較的安全な街のホテルへ宿泊するのが一般的です。ホテルへ向かう車窓から時差ぼけで眠たい眼を開けますと、真夜中のリマの街が見えてきます。道路が曲がったり複雑に入り組んだ街並みは、ブロックを隔てることに移り変わっていきます。実際に住んでみればわかることですが、区域を隔てる道路の右と左では雰囲気や治安の良し悪し、道の状態、建物の景色、おまけに臭いまでもがガラリと変わってしまふことがあります。貧富の差は日本でのそれとはまるで比較にはなりません。貧困層の人達が住む街は街路樹も公園もなく、道路も穴だらけ、上下水道や電気設備などのインフラも整っていないところがあります。一方、富裕層の人達が住む街は青く綺麗に手入れされた芝生の公園やライトアップされた街路樹があり、道路には穴もなくきれいに舗装されています。もちろんそれは即ち住民税の違いによるものでもありません。ペルーでは欧米と同じく、街はブロック（街路に囲まれた一区画のこと）という単位を使って大まかな距離の目安にしています。通りの大きいものはアベニダ、中くらいのものはカイエ、小さいものはヒロンなどと呼び方を変えます。住所・番地などは・・・地区の・・・通り・・・番地という風に書いたり呼んだりします。通りを隔てて一方は奇数番号、他方は偶数番号という風になっています。一軒の家でも戸口のそれぞれに番号がふってあり、時にややこしい場合もあります。まずは手紙を届ける郵便屋さんを困らせないよう。おまけに日本のような氏名の書かれた表札はどこにも見当たりません。大切なのは地区名、通り名と番地名です。大概はレンガやセメントコンクリートの鉄筋作りの家ですが、どの家も両端がピタリとわずかの隙間もなく隣家に接しています。家を取り壊す時も、隣家を傷つけることなく壊してしまふ

ので不思議なくらいです。近年の日本の建売の木造家屋より長持ちするのでしょうか、50〜100年経って住まわれている家屋も多いように見受けられます。日本のように畳はないものの、古い家に新しく移ってきた家族が住む場合などは木の床の場合は機械でまんべんなく削って、石の場合なら磨いてピカピカに仕上げるところが非常に合理的だと思えます。床を新しく張り替えたりしないのです。



サンバイエ教会

リマにある各新市街地には、世界の近代都市の御多分に漏れずマクドナルドやケンタッキーのようなファーストフード店、スターバックスのようなモダンなカフェショップ、映画館のような娯楽施設、またはそれらが複合された

ポートの提示です。お客さんが観光目的や短期滞在の外国人だと証明できれば、ホテル側は宿泊費に含まれる消費税19パーセントを差し引いてくれるからです。

日本人観光客の一番オーソドックスなパターンは、夜が明けるとすぐにまた空港へ戻り、今度は国内線を利用して世界遺産に登録されているインカ帝国時代の首都であったクスコという街へ行くやり方です。これまた世界遺産登録の空中都市マチュピチュも、通常このクスコの街から列車に乗って入りますので、どちらにしても人々はクスコには行かなければならない訳です。あるいは場所は全く違うものの、同じくリマ以南の世界遺産である地上絵を見るためにナスカへバスで向かう方もいらっしゃいます。日本人観光客はいつも大忙しで、時間の許す限り短期間であちらこちらと観光名所を見て廻るようです。プラジルから入ってアルゼンチンを廻り、最後にペルーに来るといってお客様もいらっしゃるかもしれませんが、これらの旅を2週間を終えるというのはさうとうとうハードなスケジュールだと思われまふ。もちろん南米旅行などあまりにも遠すぎて、一生に一回だというお気持ちはお察しできますが、これも体力がなくてはやれな

近藤 弘規 (つづく)

ほりお教授の 体験的源氏物語論(四)

優雅、至福「源氏物語」の正月

愛知淑徳大学教授 堀尾幸平



「初音」の新春

源氏物語「初音」(二三帖)から「行幸」(二九帖)までの七帖は、四季折々の華麗、優雅な場面が絵巻のように展開する。特に「初音」は完成したばかりの六条院での初めての正月で、新春、至福に満ちた情景と人事が華やかにまぶしく描写されている。

次に掲げる「初音」冒頭の文は、室町時代後期の著名な源氏物語研究の西条西実隆(一四五五〜一五三七)をはじめ、多くの公家、貴公子たちが毎年の正月に朗詠するのが恒例であったという。

平成二十一年のめでたい賀春、私たちも「体験的源氏物語論」にあやかつて家族、友人、仲間達と朗詠を体験して頂きたく少し長い引用しておく。

年たちがへる朝の空の気色、なごりなく雲らぬうららかなげさには、数ならぬ垣根の内だに雪間の草、若やかに色づきはじめ、いつしかとけしきだつ霞に木の芽もうちけぶり、おのづから人の心のびらかにぞ見ゆるかし。ましていとど玉を敷ける御前は、庭よりはじめ見どころ多く、磨きまし給へる御方々の有様、まねびたてむも言の葉足るまじくなむ。(はつね)

(現代語訳)

年が改まった元日の朝の空は一点の曇りもないうららかなげさで、何でもない人の家の垣根の中の庭でさえ雪の間からぞいた若草が若々しく色づきはじめている。早くも待ちかねたような霞の中に萌え出た木の芽もほのかに見え、人の気持ちも自然にのどかである。まして玉を敷きつめたような源氏のご邸宅は庭をはじめ見どころ

が多くすばらしい。いつもよりも一層飾り立てていらつしやる御方々(姫君たち)のお住まいもりつぱで、これを伝える言葉もないほどである。

(堀尾幸平訳)

六条院は、このように御仏の国ときえ思われるほど栄耀栄華、美事に照り輝いて、新春の瑞気に満ちあふれている。

歯固めの祝儀

美しい姫君たちは、歯固めや鏡餅にちなんで、めでたい新春を祝い合っている。歯固め。歯が齡(よわい)に通じて、年頭に長寿を祝う儀。正月の三日間、大根、瓜、押鮎、煮鮎、猪、鹿などを食して祝うのである。贅沢な食材ではあるが都合がついたら体験、賞味されるといい。

元旦、源氏は、年賀の挨拶ということで六条院に住む姫君たちの美しい晴れ着衣裳を見に廻つていく。

元旦、至福な二人

源氏は、まず最愛の紫上方を訪れて、お祝いの歌を詠み合う。

うす水とけぬる池の鏡には
世にたぐひなきかけぞならへる

(元朝の薄氷がとけて鏡のような池の面に、この世に例がないほど仲睦まじく幸せな私たち二人の姿が、いま並んで映っていますね。幸せです)

源氏と紫上ふたりの仲睦まじい新春ツーショットである。

紫式部の筆も落ちついた写実的手法で、めでたく至福な雰囲気盛り上がりつつ、読む方までが、うれしく心がときめいてくる。しかも今日の元旦は「子の日」でもある。元旦と子の日が重なるのは珍しく、この日に若菜を摘み、小松を引けば、いやましに

長寿が得られると信じられた。

今日は子の日なりけり。げに千年の春をかけて祝はむにことわりなる日なり。

この後、源氏は明石の上から姫君(源氏の美子)に届けられた歌を見る。

けふうぐひすの初音きかせよ
(今までの歳月を小松(姫君)にひかれて過ぎてきた私に、今日元旦の鶯の美しい初音を聞かせて下さいませ)

「まづ」に「小松を引く」「待つ」「姫君」とを掛けている。この歌から巻名の「初音」が付けられた。

源氏は、姫君に、この返歌をしたためさせた後、花散里、玉鬘を訪問。元日の夜は明石の上邸に泊る。そして翌日には末摘花と空蟬をねんごろに訪問している。

男踏歌

その年の正月は男踏歌(オトコトウカ)が行われた。正月十五日、殿上人などが催馬楽を歌い舞いながら貴族の邸宅を巡回する新春の祝い。夜明け方に六条院に廻つて来たので源氏は異例のご馳走をする。

平安の頃の賀正吉例行事であるが、この「踏歌」は現在も熱田神宮(名古屋)で毎年正月十一日(午前二時、午後一時)に行われているので見学はできる。

「初音」に描かれた源氏や若紫、多くの姫君たちの正月は、この上なくめでたく、華麗で、まさに栄耀栄華、至福の頂点である。だが栄枯盛衰、盛者必滅の人生の定めのごとく至福はいつまでも続くものではない。

光と影

この「初音」の華麗な正月を頂点に、源

氏の苦悩や悲哀は徐々に影を濃くしていくのである。

「若菜上」の帖で、かつての夕顔の遺児・玉鬘から四十賀の祝いに若菜を贈られて、源氏は、改めて自分の老齢を知り、その生涯を振りかえる。

源氏の何ものをも怖れなかつた堂々たる生涯も、度重なる苛酷な運命や苦悩、悲哀を避けることはできなく、やがて光の部分から影の部分に入っていく。つまり老いと死が確実に近づいてくるのである。

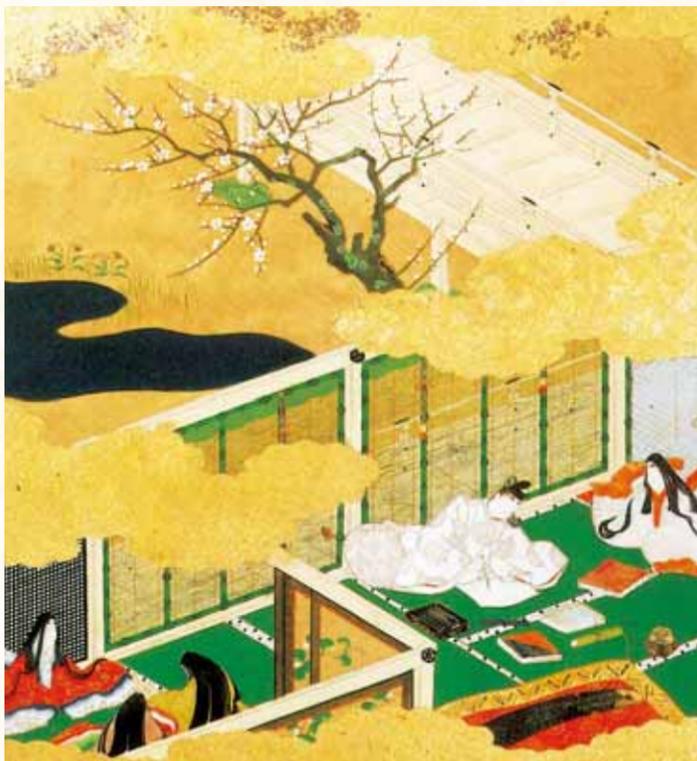
御法

「御法」(ミノリ)。第四十帖。紫上は法華千部供養をすませ、死期の近

といえる。その三か月後、真子姫は、勤務先の小学校で午後三時まで児童の相手をし、突如死去した。紫上と同じ四十三歳。幼い三人の子ともと筆者たち家族を遺して…。

娘・真子姫が亡くなってから筆者は改めて「初音」を読んで、言い知れぬ感慨を味わった。つまり至福の後に、いつとんだ底の不幸、悲嘆が襲うか分からないということである。至福は糾える縄のごとし、塞翁が馬一寸先はまさに闇なのである。

いま、私たちが、至福でめでたい正月に酔いしれるのは、とても大切であるが、老いと死とは、誰の身にも確実に到来することを忘れてはならない。それかといつて、今後い



源氏物語画帖「初音」土佐光則筆 (江戸時代)

いことを感じて人々との別れを惜しみながら八月十四日払暁に死去する。四十三歳。

この紫上の死を知つてから前巻に返つて「初音」を読んでみると、華麗な文章が、妙に切なく哀しく迫ってくる。最後の晩さん風前の灯といった趣きで胸が痛くなる。

本稿の角書きが「体験的源氏物語論」なので、個人的体験を若干書かせて頂く。

先年、筆者は元日の夜、「初音」のように家族揃つて豪華で楽しい新春祝賀の宴をを持った。やがて故人となる二女・真子姫を囲んで、めでたく至福な一夜であった。みんな、時も忘れて笑い、はしゃぎ、語り合った夢のように楽しい最後の晩さんであった

つ来るかも分からない不幸や死などを怖れて、いまの至福な時をおろそかにしてはならない。大切なのは、素晴らしい至福の今を感謝して、人生をより充実した楽しいものにしていくことなのである。

源氏物語を「御法」から逆に読んでみると、この至福の「初音」が、切なく、哀しく、また美しいものに感じられる。これが本居宣長(一七三〇〜一八〇〇)の「もののあはれ」なのである。

美化されすぎた光源氏

源氏は、「御法」で紫上に先立たれて、深く悲嘆し、出家の意志を固めると共に、改

めて自分の生涯を述懐する。だが、光源氏の一生は、果して幸せであったか、という「源氏物語」究極の課題にぶつかる。源氏の地位、境遇、美貌、風雅、知性、教養、すべてに完璧で、多くの姫君たちの理想、憧れの的であった。そして望む女性ほとんど手に入つて華麗な恋愛遍歴を展開させた。

筆者の本稿のテーマは「源氏物語」に登場する多くの姫君たちが華麗ではあるが哀しく孤独な女性ばかりということだ。だが、肝心の主人公・光源氏は、どうであつたか。

端的に言えば、多くの姫君たち以上に、苦悩の多い、哀しく孤独な生涯であつた、という思いを強くする。

源氏が、すべての面で恵まれ、完璧な存在であつたとはいえ、彼の心の弱さ、不誠実さ、傲慢さは、何とも許しがたい。

特に姫君たちとの係わりあい、つまり愛、恋に対する態度は、あまりに傲慢で、軽く卑屈で冷たい。当時の風潮であつたとはいえ、源氏の態度は、貧しく、誠意がなく、ひどい。女性に対しても表面的な美貌だけに執着して、女性の人間性、こころを見えない面が多すぎる。

古来、日本人は光源氏という人物をあまりに美化しすぎてしまつたきらいがあることは否めない。

この光源氏を千年もの長い間、理想の美男子、一種のアイドルとして、あがめられてまつてきたことに、強い疑問を感じる。

作者・紫式部は、こんな心のない、何でもない光源氏を、どうして、長く執拗に描きつづけたのであろうか。

それは、平安時代の実在の美男子・在原業平とちがつて、光源氏が創作された架空の人物だということである。作者は、光源氏を反面教師として読者に人生や愛、恋を考へて欲しいと言っているのだから。

人生も愛も、光と影、美しさと哀しさの交錯の上にある。「初音」の後に物語が、暗い闇に入つて行くように――。

だが、今は正月。素晴らしい至福の時をまずは存分に楽しみ酔うことが大事というべきである。

(愛知淑徳大学文学部教授)

知多の動植物雑記(二四四)

原 穰

新しい年を迎え、今年はこの川魚調査の新しいテーマの始まりの年となる。



カダヤシのしたたかさに驚き

のかどうなのかであるが、このことについては今後の継続観察におまかせで、後日のお楽しみである。

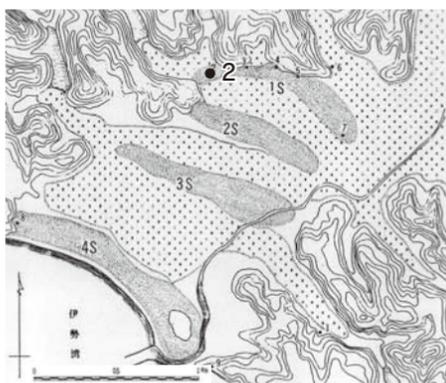
知多半島で最初に発見されたのは、昭和五十六年の初夏。半田市花園小学校の児童が近くの川で採ったと学校へ持ってきたのが、最初の記録である。

町の考古学

弥生時代(百三五) 奥川 弘成

遺跡

知多半島の弥生時代の遺跡が最も多く発見される場所は、当時の海浜にあった帯状の砂の丘です。この丘を砂堆(さたい)と呼んでいます。砂や小石などが波によって堆積したため、海岸線と平行してできています。また、波ばかりでなく風によって吹き上げられた砂も一緒に堆積して微高地となっています。



内海谷に見られる砂堆2が下別所遺跡(原山 山下勝年氏作成)

図の1Sは、内海谷の最も奥まったところで形成された砂堆です。ここでは縄文時代の貝塚や弥生時代や古墳時代の遺跡が発見されています。

立の様子から江戸初期には人家を構えていたようです。このように1Sから3Sまでの生活の痕跡からたどると、内海谷は弥生時代以降、谷の口に向かって徐々に陸化が進んでいることが分かります。

砂堆近くで滞ったことでヨシが生える湿潤な土地となっていたと考えられます。そこに水路を引き、灌漑をすることなく、自然地形をそのまま利用した自然農法で稲作が行うことができた。それは、弥生時代中期前半のことと考えられます。

周辺のガマやカヤツリグサ、ヨモギなどが自生し、まわりにフジ、ムクロジなどの落葉樹に混じって、マテバシイ、シラカシなどの照葉樹の森が茂り、ヒシやオニバスの浮かぶ沼や池があったといえます。

城山の紅葉天守に攻め上る冬帽子すっぽり隠す地獄耳花八つ手年々歳々変わらぬ集めて図鑑に照らす紅葉かな枯れ菊の花に未練の捨て切れず開帳日じやんけん強くなれぬまま親睦の宴たのしげ夜の長し山茶花の道は園児の散歩道裸木に電飾囃と輝けびつくり山もみじ

近頃の森ではシカやイノシシを狩り、川や沼、海辺でコイ、ウナギ、スズキ、クロダイなどを捕り、沖に乗り出してマグロ、マイイなど、の外洋魚を捕っていた出土遺物から想定されています。

そして、弥生時代の前期や中期のころは、十分な米の収穫が望めなかったことから特に魚介類への依存が大きくなり、シシやヒシ、シイ、シカ、イノシシなどの野生動物植物を栄養源としていたといわれています。

ちよっとおじやまします

陶芸家 森 麻利江さん



いつもふんわりとした空気をまとっている。でも、最近、エネルギーが内から湧き出ているような輝きも加わってきた。



現在、彼女は方角館陶芸教室の講師としても活躍している。1人で陶芸教室を任される

性がある。その女性とは、物を作ることに大好き。絵を描くこと大好き。人と違ったことがしたい。だから、手に職をつけたかった。職人になりたかった。と、ずーっと思い続けていた森麻利江さんだ。

彼女が得意とするものは、千利休が確立したといわれる織部だ。彼女は思惑通りに形づくられた器に、料理を盛りつける人の創造力をかきたてるかのよう

で、1年半になる。とびつきの笑顔で教える余裕もできた。彼女にとつて、「2008年、いろいろなお出逢いがあった」という。人間って、面白いなあ。と思っただけで、面白くない。と、2009年の今年は、個展に挑戦したいと情熱は更に高まっている。

趣味は読書と買い物。そして、時には両親に料理をもてなす。得意料理は、鍋物と野菜たっぷりのサラダだ。

(赤井 伸衣)

5627

若竹俳壇

作品募集 毎月十日までに集めて

- 鬼崎公民館 文化教室 委名の千羽鶴に挑戦!
文化教室 委名の千羽鶴に挑戦!
文化教室 委名の千羽鶴に挑戦!

- 武蔵野中央公民館 親子園がすべて
武蔵野中央公民館 親子園がすべて
武蔵野中央公民館 親子園がすべて

うたごえ in 茶房つばら
子供の頃聞いた懐かしいあの歌をみんなで大きな声で聞きましょう!

妖精パックが現れました。二人の話を聞いたバックは、おどろきの戦術のほれ薬を、父と母は、おどろきの妖精を、おどろきの妖精を、おどろきの妖精を...

